

分野3 人と自然が共生するまち「ながの」(環境分野)

政策1 環境に負荷をかけない持続可能な社会の形成

施策1 脱炭素社会の構築 …施策番号 19

施策2 循環型社会の実現 …施策番号 20

政策2 自然と調和した心地よい暮らしづくりの推進

施策1 豊かな自然環境の保全 …施策番号 21

施策2 良好で快適な環境の保全と創造 …施策番号 22

1 施策の概要

施策番号	19 (3-1-1)	分野横断 テーマ① まち	
分野	環境分野	担当部局	環境部
政策	環境に負荷をかけない持続可能な社会の形成	担当課	環境保全温暖化対策課
施策	脱炭素社会の構築		
施策の 目指す状 態	温室効果ガスの排出削減を意識した日常生活や事業活動が営まれ、排出量が年々減少しているとともに、一定程度上昇する気温の影響など、気候の変化による被害を回避、軽減している。(緩和策+適応策)		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会					環境					経済					全体	
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
	1	2	3	4	5	10	16	6	7	13	14	15	8	9	11	12	17
							○		○	○		○	○	○	○	○	○

2 指標の推移等

内 容	単位	基準値	後期基本計画期間中の実績値					目標値 (R8)	
			R4	R5	R6	R7	R8		
環境・体制に関する評価①	身のまわりにおいて、太陽光発電や節電、自動車利用を控えるなど、温室効果ガスの発生を抑える取組が日常的に行われている	%	(R3) 22.9	22.5	22.6				↑
R5年度実績値の理由	様々な取組が行われているものの、2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロするという目標に対しては進捗状況が十分ではないと考えている市民が多いものと思われる。								
環境・体制に関する評価②	日常生活において、災害における防災・減災対策や熱中症予防など、温暖化に伴う影響に備えた取組が行われている	%	(R3) 48.0	34.4	29.0				↑
R5年度実績値の理由	自然災害の激甚化や気温の上昇など地球温暖化が原因とされる事象が年々深刻化しているため、取組が不十分と考えている市民も多いものと思われる。								
回答者自身の実践状況①	太陽光利用や節電、自動車利用を控えるなど、温室効果ガスの発生を抑える暮らしをしている	%	(R3) 40.2	41.1	42.8				↑
R5年度実績値の理由	温室効果ガスを減らすライフスタイルの認知度は高まっている一方、実践に移せない市民も一定数いるものと思われる。								
回答者自身の実践状況②	災害に対する備え(防災グッズ・バザードマップの確認)や熱中症対策など、温暖化の影響への対応を心掛けた暮らしをしている	%	(R3) 76.0	60.1	59.1				↑
R5年度実績値の理由	災害に対する備えはしているものの、自然災害が激甚化しているため、備えが十分だと感じる市民の割合は減少しているものと思われる。								
温室効果ガス排出量	各種統計資料の電力使用量や自動車登録台数などのデータを用いて算出した市民一人一日当たりの温室効果ガス排出量	kg-CO ₂	(H30) 5,476	5,139 (R1)	4,850 (R2)				4,251 以下
R5年度実績値の理由	環境保全温暖化対策課	再生可能エネルギーの普及、エネルギー使用量の減少によって、前年度よりも温室効果ガスの排出量が減少した。							
再生可能エネルギーによる電力自給率(発電設備容量)	発電設備容量(①水力・小水力+②太陽光+③バイオマス) / 最大電力需要量	%	(R2) 56.4	57.9 (R3)	62.5 (R4)				70.0
R5年度実績値の理由	環境保全温暖化対策課	再生可能エネルギー設備量の増加に対し、最大電力需要が減少したため、再生可能エネルギーによる電力自給率が増加した。							
バイオマス発電量	市内バイオマス発電施設による年間発電量	MWh	(R2) 65,821	63,782	62,614				84,500
R5年度実績値の理由	環境保全温暖化対策課	ながの環境エネルギーセンターへのごみの搬入量が減少したことに伴い、発電量が減少していたため、前年度よりバイオマス発電量が減少した。							

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R5年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> 地球温暖化対策及び停電時の対応力強化を図るため、「長野市温暖化対策推進補助金」を創設し、この補助事業により、電気自動車54台、定置型蓄電池151基(うち34基は太陽光パネルと併せて設置)、電気自動車等充電設備(V2H)24基が導入された。 電気自動車の普及促進のため、普通充電器2基(松代荘、戸隠キャンプ場)、急速充電器3基(真田宝物館、旅の駅鬼無里、長野市役所広場駐車場)を設置した。 地域のバイオマス発電事業者から調達した電力を市有施設に供給する、官民出資による自治体新電力「ながのスマートパワー株式会社」を設立し、市立の小学校、中学校及び高校を含む91の市有施設へ電力供給を開始した。
--	---

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題（該当ゴール及び三側面のバランス）
<p>長野地域連携中枢都市圏共同で2050ゼロカーボン宣言を行った本市として、脱炭素社会の実現に向けた取組の強化が求められている。アンケート指標では、温室効果ガスの発生を抑える取組など低炭素行動に対し一定の認識はあるものの具体的な取組を行っている市民の割合は低いため、市民一人ひとりの行動変容につながる取組を実施する必要がある。</p>	<p>温室効果ガス削減による気候変動の緩和のほか、気候変動に伴う影響の緩和やエネルギーの地産地消による地域循環型経済の構築など社会・経済面での持続可能化を視野に入れた施策を実施する必要がある。</p>
<p>上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）</p>	
<p>2050ゼロカーボンに向けて、令和4年4月策定の「第三次長野市環境基本計画」に基づく再生可能エネルギーやバイオマス資源の利活用、省エネルギーの推進などの各施策を推進し、市有施設への再生可能エネルギー設備の率先導入を図るとともに、脱炭素に向けた市民・事業者による具体的な取組を促進する事業を実施する。</p>	

3-1-2

1 施策の概要



施策番号	20 (3-1-2)		担当部局	環境部
分野	環境分野		担当課	生活環境課
政策	環境に負荷をかけない持続可能な社会の形成			
施策	循環型社会の実現			
施策の目指す状態	市民や事業者がごみの発生抑制に積極的に取り組み、排出量が年々減少している。			

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会						環境				経済				全体		
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
							○	○			○			○	○	○	○

2 指標の推移等

内容	単位	基準値	後期基本計画期間中の実績値					目標値 (R3)	
			R4	R5	R6	R7	R8		
環境・体制に関する評価①	身のまわりにおいて、ごみの発生を減らす取組が日常的に行われている	%	(R3) 44.1	45.4	44.4				↗
R5年度実績値の理由	資源物の分別や生ごみ自家処理など、ごみの発生を少なくする配慮とリサイクルへの取組みなど市民意識の醸成は図られているが、19歳以下においては、具体的な取組みが見えないため、否定的評価が肯定的評価を上回っている。								
回答者自身の実践状況①	食べ物を無駄にしないなど、ごみを出さないように気をつけて生活している	%	(R3) 85.2	88.2	86.1				→
R5年度実績値の理由	食品ロスやごみを減らす取組みが全世代において行われており、高い水準を維持できている。								
回答者自身の実践状況②	マイボトルを携帯したり、ストローやスプーンをもらわれないなど使い捨てプラスチックの削減に取り組んでいる	%	(R3) 76.0	77.5	75.5				↗
R5年度実績値の理由	海洋プラスチックごみ問題や気候変動問題などの環境問題につながる取組みの一つとして広く周知されてきており、各世代層に脱プラスチックへの意識が高まっている。								
回答者自身の実践状況③	ごみの分別を徹底している	%	(R3) 93.7	94.9	94.0				→
R5年度実績値の理由	ごみを分別することが習慣化されており、各年代で高水準を維持している。								
事業所からのごみ排出量	事業所からのごみ排出量 (産業廃棄物を除く)	t	(R2) 40,898	38,986	37,886				40,004以下
R5年度実績値の理由	生活環境課	全国的に見ても事業所からのごみ排出量は減少傾向にあり、企業努力によるプラスチック容器包装の軽量化や3R促進などによって減少していると思われる。							
ごみ総排出量	市民一人一日当たりのごみ排出量	g	(R2) 926	891	854				881以下
R5年度実績値の理由	生活環境課	全国的にごみの総排出量は減少傾向であり、生活様式の変化や物価高による実質消費マイナスの影響によって、家庭系ごみ・事業系ごみともに大きく減少したと推察される。							

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R5年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの掲載内容の見直し、主に転入者等を対象とし「ごみの出し方保存版」の発行、全世帯に対して「ごみ収集カレンダー」、「サンデーリサイクル日程等チラシ」及び「えこねこ通信」の配布等の広報啓発活動を実施。 ・ごみ分別強調月間では、ごみ集積所を巡回指導し該当区域へその結果の共有の他、出前講座の実施などにより、ごみの減量・分別の徹底を啓発。 ・事業所に対しては、事業ごみの処理ガイドを発行し、排出事業者責任を自覚させるとともに、ながの環境エネルギーセンターでの定期的な展開検査を実施し、ごみの分別・減量を徹底させた。
---	---

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGs の視点からの課題（該当ゴール及び三側面のバランス）
<p>市民、事業者、行政が一体となり、より一層のごみの発生抑制及びごみの分別の徹底を啓発し、ごみの減量化と再資源化を目指す。</p>	<p>つくる責任、つかう責任を自覚し、「必要なモノ・サービスを必要な人に、必要な時に、必要なだけ提供する」社会を構築し、ライフサイクル全体で徹底的な資源循環を行う必要がある。</p>
<p>上記課題の解決に向けて必要なこと（課題解決に向けてやるべきこと）</p>	
<p>・ 3R（リデュース、リユース、リサイクル）への更なる意識の高揚を図るため、あらゆる場面において、ごみの減量・再資源化への取組を推進する。</p> <p>・ プラスチック資源循環等の取組（3R+Renewable）のため、より持続可能性が高いバイオプラスチックへの転換を図り、使い捨てプラスチック製品から植物由来の環境に優しい素材・製品の導入を促進する。</p> <p>また、プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律（令和4年4月施行）に基づくプラスチック使用製品廃棄物の分別収集の実施に向けた準備を進める。</p> <p>・ 家庭ごみについては市民ひとり一人がごみの減量・分別を実践するよう取り組む。ごみ処理に関する理解を深めるため、ごみの出し方保存版の発行、ごみ収集カレンダー及びえこねこ通信の配布、ごみ分別強調月間におけるごみ集積所巡回指導及び出前講座の実施などを行い、環境教育・環境学習を充実していく。</p> <p>また、家庭ごみ処理手数料を財源として、生ごみ自家処理機器購入補助金の交付をはじめ、資源回収報奨金の交付、食品ロス及びプラスチック廃棄物対策を推進していく。</p> <p>・ 事業ごみについては、排出事業者の責任を自覚させ、ごみの発生段階で徹底的に分別し、事業系一般廃棄物を減量するよう取り組む。従業員ひとり一人がごみの減量に取り組むこととし、事業ごみの処理ガイドなどを使い啓発していく。また、環境保全に配慮した取組を行っている事業者を「ながのエコ・サークル」に認定し、優良事例として取りあげ、自主的な取組を促す。</p>	

3-2-1

1 施策の概要



施策番号	21 (3-2-1)		
分野	環境分野	担当部局	環境部
政策	自然と調和した心地よい暮らしづくりの推進	担当課	環境保全温暖化対策課
施策	豊かな自然環境の保全		
施策の目指す状態	豊かな自然環境や生物多様性が保たれ、自然と触れ合うことができる。		

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会						環境					経済			全体		
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
	1	2	3	4	5	10	16	6	7	13	14	15	8	9	11	12	17
				○			○	○			○	○			○	○	○

2 指標の推移等

内容	単位	基準値	後期基本計画期間中の実績値					目標値 (R8)		
			R4	R5	R6	R7	R8			
環境・体制に関する評価①	豊かな自然環境が保たれている	%	(R3) 70.4	71.6	70.9				→	
R5年度実績値の理由	基準値を上回った。特に若年層において、肯定的な評価が強い傾向が見られる。									
回答者自身の実践状況①	自然について学び触れ合うなど、自然環境保全を意識した暮らしをしている	%	(R3) 51.7	52.5	52.1				↑	
R5年度実績値の理由	基準値を上回った。多くの年代において、家庭や身近な場所で自然と触れ合う機会があることが伺える。									
統計指標	環境学習会参加者数	市及び各団体が主催する環境学習会の参加者数	人	(R2) 2,638	2,094	2,145				5,500
R5年度実績値の理由	環境保全温暖化対策課	新型コロナウイルス感染症対策をきっかけに大幅に減少したものの、徐々に回復傾向が見られる。								

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R5年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> 大谷地湿原および奥裾花自然園の現状を調査し、保全を図るため、地元学術機関との連携事業を活用し、長野工業高等専門学校に委託して各種調査を行った。 令和5年5月に新型コロナウイルス感染症による行動制限が撤廃されて以降、当初予定していた環境学習会を開催することができた。
---	---

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題 (該当ゴール及び三側面のバランス)
<ul style="list-style-type: none"> 大谷地湿原および奥裾花自然園の適切な保全方法について、調査結果を踏まえ効果的な対策を講じ検証する必要がある。 希少動植物の保護や特定外来生物の駆除など生物多様性の確保については、効果の検証が難しい。 環境問題が多様な時代になっているため、将来を担う子どもたちの環境学習の充実が必要 	山地生態系(飯綱、大岡、戸隠)を保持することを含め、自然環境の保全や生物多様性の確保に関する取組を多様な担い手により行い、持続可能な社会へとつなげていく必要がある。
上記課題の解決に向けて必要なこと (課題解決に向けてやるべきこと)	
<ul style="list-style-type: none"> 大谷地湿原および奥裾花自然園保全復元に関する調査で得られた成果を地域等に還元し、復元につなげる。 特定外来生物への対応について情報収集及び周知、啓発を行う。 体験を重視した環境学習会を実施するなど、参加者の増加につながる工夫を行う。 	

3-2-2

1 施策の概要



施策番号	22 (3-2-2)		担当部局	環境部
分野	環境分野		担当課	環境保全温暖化対策課
政策	自然と調和した心地よい暮らしづくりの推進			
施策	良好で快適な環境の保全と創造			
施策の目指す状態	良好な生活環境が美しく保たれている。			

※ SDGsとの関連

主要な目的に該当するゴール	社会						環境					経済				全体	
	貧困	飢餓	保健	教育	ジェンダー	不平等	平和	水・衛生	エネルギー	気候変動	海洋資源	陸上資源	経済成長と雇用	イノベーション	持続可能な都市	生産と消費	実施手段
	1	2	3	4	5	10	16	6	7	13	14	15	8	9	11	12	17
			○				○	○			○	○			○	○	○

2 指標の推移等

内容	単位	基準値	後期基本計画期間中の実績値					目標値 (R8)	
			R4	R5	R6	R7	R8		
環境・体制に関する評価① R5年度実績値の理由	空気や水がきれい、まちも美しく保たれている	%	(R3) 71.8	73.3	74.4				→
回答者自身の実践状況① R5年度実績値の理由	地域の環境美化活動など、良好な生活環境を保つための取組に参加している	%	(R3) 47.5	46.7	47.2				↗
統計指標 R5年度実績値の理由	ポイ捨て等ごみ回収量	g	(R2) 470	322	346				300以下
	環境保全温暖化対策課			新型コロナウイルス感染症対策による行動制限が撤廃され、環境美化活動を再開する地区が増え、回収量も増加した。					

3 目標達成に向けた取組内容と実績

R5年度に目指す状態や指標の目標達成に向けて取り組んだ内容 (改善を行った内容を中心に記載)	<ul style="list-style-type: none"> 駅前一斉啓発の再開や動画放映等、ポイ捨て等禁止条例に基づく禁止行為の周知を行い、ポイ捨て防止啓発及び脱プラスチックに向けプラスチックスマートに対する意識向上を図ることを目的にプロギングイベントを実施した。 公益法人長野シルバー人材センター・警備会社への委託により中心市街地のポイ捨て・歩行喫煙のパトロールを実施した。 ごみゼロ運動の実施にあわせ、地域での環境美化説明会等を通じて不法投棄に関する情報提供や市が設置する防止看板の設置場所の選定など不法投棄防止対策について周知を行った。
---	---

4 課題と今後の展開

目指す状態・指標達成に向けた課題	SDGsの視点からの課題 (該当ゴール及び三側面のバランス)
新型コロナウイルス感染症対策による行動制限が撤廃されたことで人流が増加し、ポイ捨てごみや歩行喫煙者が増加する可能性がある。	自然環境を保全していくとともに、ポイ捨てごみは川を流れやがて海洋ごみとなっていくことから、環境美化活動を推進し、ポイ捨てごみを減少させる必要がある。
上記課題の解決に向けて必要なこと (課題解決に向けてやるべきこと)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地区環境美化活動への協力や、「長野市ポイ捨て、道路等における喫煙等を防止し、きれいなまちをつくる条例」に基づくポイ捨てごみの防止を図るため、周知・啓発を徹底する。(一斉啓発、広報紙へ掲載など) 	